

第4に歳を重ね、核となつていていた仲間を1人失い、この先何年清掃を続けられるか不安を感じるようになります。また、故障とか破損することも起りこり得ることです。そうしたことから、正門を今後とも良好な状態で維持管理することをふまえ、模索してきました。



清掃中の有志の皆さん



### 清掃中の有志の皆さん

を機に、記念行事の協賛金の一部を、正門の維持管理基金として残そうということになりました。

残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大による自粛のため、ほとんどの50周年記念行事は来年まで延期となりました。それに伴い、正門基金の発足も延期となっています。

私たちの学び舎は、年を経ても変わらず心に残っています。現在学んでいる後輩たちの記憶にも残ってほしいという思いを込めて、飯田高校正門整備基金がスタートした折には、皆さまのご理解・ご協力を賜りたくよろしくお願い致します。

## 飯田高校正門整備基金 に寄せて

二二二会会长 前沢元 (高22回)



●まえざわ・はじめ  
飯田市出身。高校時代は、数学  
部、将棋同好会に所属。名古屋  
大学文学部卒業（社会学専攻）。  
飯田へ戻り参加した草ラグビー  
が同期生との繋がりのきっかけ  
け。仕事は鋼材などの卸売業。  
興味があるのは、茶、和菓子、本。

高22回（名称「二二会」）の北川原温君が母校の正門を制作したのは1996年でした。その2年ほど前に、卒後25周年記念祝賀会の際、当時の木下俊佐校長から正門を新しくしたいというご希望が出されました。後日、幹事が詳細を伺い、北川原君に相談を持ちかけたところ、



## 正門「群像」



## 校舎と正門（全景）

制作を快諾してくれたという絆がありました。この正門の著名な作品を手掛けてきた北川原君によるこの正門は、我々にとって彼の作品の中で最も身近に感じられるものであります。

この正門のモチーフは南アルプスや天竜川といった、生まれ育った故郷の自然であり、そこに住む人々であり、伝統文化であるということ。門はステンレス製の部材で、6つのピースからなり、全体の形が複雑に変化しています。「群像」と名づけられたのは、それが、生徒の歩く姿に見えることからだそうです。

毎年暮れになると、飯田在住の二三会有志たちが、この正門の清掃を買って出て汗を流してきました。新年を迎える慣例行事となっているのです。そこには北川原君の「作品」に対する思いがあるので、楽しみながら、無理せず続けてこられたのです。しかしながら、我々も次

折しも、今年、卒後50周年の記念の年を迎えるので、いろいろな記念行事を企画してきました。そうした中で、これ

連絡先／飯田高校同窓会事務局  
メールアドレス／ikdj@iikou-d.jp  
電話／0265-23-2650